

CSV 通信

令和 7 年 12 月 5 日発行
東京都立中野特別支援学校+
しいの木分教室
校長 和田 慎也
文責: 今本 和宏 堀切 美和

★島しょ について★

神津島

9 月 10 日～11 日の行程で訪問し、高等学校の他、神津村立神津小学校、神津中学校へ訪問しました。小中学校では、特別支援学校への進学についての情報提供・ケース相談を行いました。

【都立神津高等学校】通級による指導の見学、授業見学、特別支援教育コーディネーター会議への参加をしました。通級による指導はオンラインも併用しながら行われ、自己紹介を兼ねたアイスブレイク、生活サイクルの確認のあと、行事について心配なことを話し、どのようにしていくか具体的に考えていました。担当の先生方が学校生活に即したアドバイスをし、受け入れ、自分の言葉で心配事を前向きな言葉に代えていることが印象的でした。



小笠原諸島

今年度は、10月6日から14日の行程で父島と母島を訪問しました。小笠原へは、通常週一便の船で 24 時間かけての移動になります。往きは東京区部も真夏日でしたので、小笠原に着いた時も同じような気温でスタートを切ることができましたが、復路は区部では一気に秋が深まったため気温差が10度ほどあり、身体を慣らすのに数日かかってしまいました。1,000 kmという距離を改めて体感したところです。



訪問では、授業観察、ケース検討、特別支援委員会への参加、校内研修会の講師などを行いました。参観した授業では、指導の手立てとして動作化や視覚化が行なわれていることに特別支援のマインドを感じました。そのような良い部分を言語化し、先生方と再確認していくことが授業観察の一つの目的です。さらにプラスするともっと良くなることとして、聴覚と視覚の指示の割合を意識することやワークシートにおける練習問題の量を何回かにわけて行うなどスモールステップを活用することを提案しました。このように、授業における良い指導の手立てを言語化し、校内に般化させていくことは私たちの役割の一つです。また、特別支援委員会への参加では、ケースを絞って検討が行われました。課題となっている生徒の見える行動に対して、本人



の認知面の弱さや発達の偏りなどの原因の他、心理面で抱えている問題はないか、家庭や学校等における社会的な原因はないか、など背景要因をいっしょに考えていきました。特別支援教育が積み上げてきたケース検討での考え方をお伝えし、高等学校の中でも活用されていくことも、私たちの大切な役割だと思っています。

三宅島

9月29日～30日の行程で訪問し、高等学校の他三宅村立三宅小学校、三宅中学校、三宅保育園へ訪問しました。小中学校では、中学校での特別支援学校への進学についての情報提供、小学校入学に向けてケース相談等を行いました。

【都立三宅高等学校】授業見学、ケース観察、特別支援教育コーディネーター会議への参加をしました。授業観察の中で、視覚支援を用いて見通しをもてる授業の様子や、「見る」「写す」とPowerPointのページごとに、今、すべきことも提示されていて生徒が集中しやすい環境づくりが意識されていることがわかりました。コーディネーター会議で依頼され、三宅高校のユニバーサルデザインの取り組みを可視化し、さらに行えることをまとめとして提案させていただきました。



★高等学校「通級による指導」授業見学について★

通級を実施している高等学校の協力をいただきながら、地区ごとに様々な見学会が行われています。

これから通級が始まる高等学校対象に、課題が似ている高校の授業見学、連携事業者選定の参考にするための見学等、高等学校の要望を地区拠点校が聞き取ったうえで、CSVとも連携して設定しています。

また、通級を行ったことがない等の高等学校対象に、通級の授業は、どんなことを、どのようにやっているかのイメージをもってもらうための見学会も行っています。ライブやオンライン、映像等で授業を見学後、質問タイムもあります。授業に関することにとどまらず、困りごとのある生徒をどのように通級につなげたか、校内で授業者等をどのように決めたか、経験のある高等学校の担当者のノウハウを、直接聞くことができる機会としても活用してもらっています。

授業見学のご要望がありましたら、お気軽に地区拠点校へお声がけください。

★盲学校・ろう学校との連携について★

高等学校連携の中で、特別支援学校がもつ専門性の活用として、視覚や聴覚に困難さのありそうな生徒の相談があった際、各地区（東部中部西部）の担当盲学校、ろう学校につないでいます。

「聞こえに困りごとがありそうな生徒が在籍しているが、医療と連携がないため情報がなく、どのように高校として支えていけばよいか」との相談がありました。ろう学校のコーディネーターが高校を訪問し、生徒の様子を観察したうえで、支援方法の助言を行いました。

また、補聴援助システム「ロジャー」使用の生徒が在籍する高等学校からは、大学進学に向けて、中央ろう学校で行われている「大学生の話を聞く会」を紹介しました。卒業生がどのような支援を受けながら大学生活を送っているか、情報を得る機会として活用してもらっています。